

「事業名:災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」

長崎大学（共同申請：福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学）

現地拠点：福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1/大熊町大字大川原字南平1717/双葉町

事業のポイント

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町や大熊町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会や世界保健機関といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

人材育成目標

1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持ったうえで、福島の復興、発展を主導できる人材を育成します。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、国内において本分野を担う人材を育成します。
3. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、グローバルに本分野を担う人材を育成します。

2022年度の活動内容

1. 川内村、富岡町、大熊町に加えて双葉町において、「住民と行政、専門家が一体となった原子力災害からの復興モデル」を形成します。
2. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して「救急医学セミナー」、「環境放射能セミナー」、「復興学セミナー」を浜通りにおいて開催し、福島県下の若者世代の人材育成に貢献します。
3. 世界各国の災害・被ばく医療科学の研究者が参加する国際セミナーをオンライン開催し、災害・被ばく医療科学分野のグローバル人材育成を浜通りで行います。
4. 原発立地、および周辺自治体の教員や職員を対象とした「災害・被ばく医療学セミナー」をオンラインで全国に発信し、福島の現状を知っていただくと同時に、福島の教訓を将来の防災、減災に活かす取り組みを行います。

取り組みによって得られる成果

上記のような取り組みを行うことで、福島県浜通りに「災害・被ばく医療科学」のグローバル人材を育成し、「復興知を学ぶ」知の交流拠点を構築します。

